

そほう
組報

多摩

No.10

組報 多摩 No.10
 発行日 2010年11月1日
 浄土真宗本願寺派
 東京教区 多摩組
 事務所/圓福寺内
 東京都調布市国領町1-10-11
 〒182-0022 TEL042-482-7955
<http://www33.ocn.ne.jp/~tamaso/>



築地本願寺本堂にてお待ち受け法要（新門様御親修）



懇親会 クラリネット四重奏

親鸞聖人七百五十回大遠忌法要 多摩組お待ち受け記念行事の開催

平成二十三年・二十四年には、ご修復を終えた本願寺御影堂において、親鸞聖人七百五十回大遠忌法要が厳修されます。この法要に先立ち、東京教区多摩組では、六月十五日に築地本願寺において、「お待ち受け記念行事」を開催いたしました。

午後二時からの第一部の法要は、宗祖月忌速夜法要に兼修され、新門様お導師のもと、組内住職方の出仕をいただき、『宗祖讃仰作法』によりお勤めをいたしました。多摩組内遠近各方面より二四五名の方の参拝をいただき、法要後七九名の方が帰敬式を受式いたしました。

第二部では、山崎龍明師の記念法話を聴聞し、続いて三遊亭鳳楽師匠の楽しい落語を拝聴いたしました。

続いて第三部の懇親会では、豪華な料理をいただきながら、光源寺の杉本亜矢さんと仲間達によるクラリネット四重奏のコンサートに聴き入りしました。

この記念行事により、来年より本山でお勤まりになる七百五十回大遠忌法要への参拝志気が高まるとともに、多摩組の活動の活性化がはかられ、より積極的な寺院活動がなされることを期待いたします。

京都・長良川温泉・白川郷
二泊三日の旅

京都本願寺

親鸞聖人七百五十回大遠忌法要

団体参拝参加者募集

京都の本願寺での親鸞聖人七百五十回大遠忌法要は、平成二十三年四月から平成二十四年一月まで七期にわたる法要が予定されております。

多摩組では、平成二十三年六月十二日に参拝を予定しており、団体参拝者の募集を行います。

このたびの尊いご勝縁に、是非ご参拝いただきますようご案内いたします。

日 時 平成二十三年
六月十二日(日)～十四日
(二泊三日)
旅行代金 七万五千元(お一人様)
募集人員 三五〇名
申込〆切 平成二十三年一月末日
申 込 多摩組各寺院へお申出下さい

旅行の行程

▼第一日目

東京駅または新横浜駅 発

(九時～九時半頃) 【新幹線】

本願寺 法要参拝・諸行事参加

(十二時半～十五時半頃)

京都東急ホテル宿泊

(夕食、木屋町にて京料理)

▼第二日目

本願寺 晨朝参拝(希望者)

(六時～)

朝食(ホテルにて・七時半頃)

本願寺 書院・飛雲閣 拝観

(九時～十一時頃)

昼食(イタリアン・京都市内)

昼食後 東山界隈自由散策

(十三時～十四時頃)

【バス・名神道】

岐阜・長良川温泉(十六時頃)

岐阜グランドホテル宿泊

▼第三日目

長良川温泉発(八時半頃)

世界遺産『白川郷』散策

(十一時～十二時半)

昼食(昼食後バスにて帰路)

【高山～安房トンネル～松本

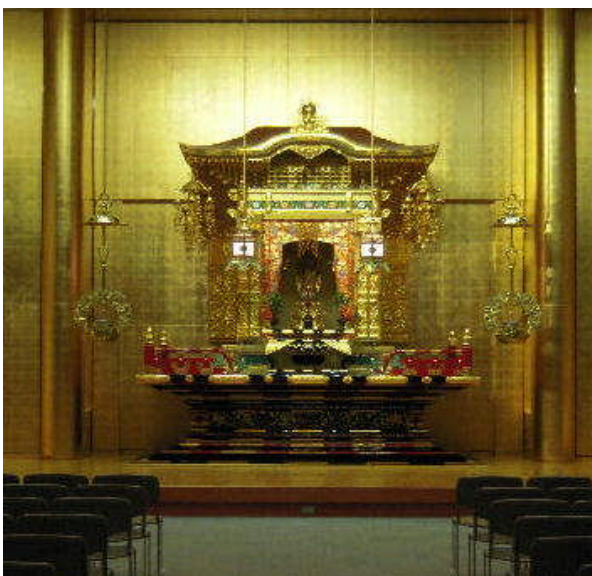
～中央道～東京・二十時頃】

※帰路は松本駅より『あずさ』利用も
できます。(五千元)

築地本願寺

本堂内陣修復工事始まる

築地本願寺において、親鸞聖人七百五十回大遠忌法要をお迎えするにあたり、記念事業の一環として内陣の修復工事を行うことになりました。工事期間は、二〇一〇年(本年)十二月より二〇一二年四月頃までの一年五ヶ月を予定しております。この期間は、第二伝道会館「蓮華殿」を仮本堂とし、恒例法要をはじめ一座経も仮本堂でお勤めし、帰敬式、結婚式などの儀式も仮本堂で執り行います。また、これまで本堂で開催されてきた各種行事(イベント等)も規模等を考慮して開催可能であれば、仮本堂で開催します。但し、パイプオルガンラントタイムコンサートは期間中お休みです。また、期間中のご本尊などの免物の取り扱い扱いは、仮本堂の受付で行なわれます。



蓮華殿の仮本堂

みんなでお参りしましょう!!

親鸞聖人七百五十回大遠忌をお迎えして

本願寺派司教
玄忠寺住職

五十嵐 大策

来年の平成二十三年は親鸞聖人の七百五十回大遠忌法要をお迎えいたします。ありがたいこととあります。

おもいますに、昭和三十六年は親鸞聖人七百回大遠忌法要がありました。その時は長岡市のお寺の皆様と一緒に本山まいりをいたしました。

その頃は、阿弥陀寺（多摩市・もとは長岡市）を開基した妙法尼も元氣であり、明宝（阿弥陀寺初代住職）も明観（ハワイ開教使）もいまだ若い頃でありました。一緒に西本願寺に参拝させていただきました。しかし、すでにこの三人は浄土に往生しております。

多摩組に入れていただいて、どのお寺も御開山親鸞聖人との深いご縁があるのだと知らされます。

例えば、私の存じあげる範囲内で申せば、圓福寺様は親鸞聖人が尊敬された聖徳太子の古い彫像があることで知られております。学生時代、石田茂作博士から教えていただきましたが、博士の聖徳太子関係の写真集に圓福寺様の聖徳太子が紹介してありました。

又、長専寺様は二十余輩（にじゅうよはい）の一人唯信房様が開基されたお寺です。唯信房は二人いたとされますが、御開

基はトモリ（外森）の唯信房様であったと思われま。親鸞聖人を篤く敬った門弟の一人でありました。

又、光源寺様は蓮如上人の真筆の六字名号が現存しております。むかし、宮崎円遵先生に引率されて関西の寺宝を拝観したことがありました。近畿一帯は蓮如上人の御文章や名号本尊の真筆が多く保存されております。しかし、関東からはめったに蓮如上人の真筆は出てまいりません。宗祖と蓮師を共々によるこびたいものであります。

更には、多摩地区は関東大震災後、築地本願寺の近くにあつたお寺が、調布市だけでもその時十ヶ寺移転してきました。当時は大変なご苦労であつたと思ひますが、この大悲劇を転じて、多摩地区の浄土真宗が今日繁盛してきたのであると味わうことができます。如来のはからいでありま。

かつて、本山の安居（あんご）で『尊号真像銘文』（宗祖八十六歳作）と『親鸞聖人御消息』（計四十三通）を講義させていただきますました。親鸞聖人の学習・勉強・研究・研鑽をすればするほど、浄土真宗の聞法・聴聞をすればするほど、その御高德がいよいよ偲ばれて、このたびの大遠忌法要がよろこばれるのであります。

なぜ？なに？

Q&A

Q 「親鸞聖人七百五十回大遠忌の意義とは何でしょうか？」

A 「普通、一般的なご法事では、一個人の法要としては五十回忌くらいまでを一区切りとしています。特別に、社会的な功績のあつた方などは、百回忌、二百回忌とお勤めされる場合もあります。親鸞聖人は、単なる一個人ではなく、また社会的功績という枠にとどまらず、全てのものが等しく救われる道を、その生涯を通してお示し下さいました。「もし聖人がお出ましにならなかつたら、この私の救われる道はなかった」。この事実を想うとき、聖人の存在、その誕生、その生涯、その往生、全てが尊く、篤く偲ばれるものとなるでしょう。このような聖人を慕う篤い想いが、これまで大遠忌を勤めてきたのだと思ひます。七百五十回大遠忌をご縁として、改めて聖人の御生涯を偲ぶ中で、聖人が伝えて下さつたお念仏のみ教えをしっかりといただき、子や孫に伝える機縁にさせていたいただきたいのです。「我が身に引きかけてお念仏を味わう」ご縁にさせていただきますましよう。

(藤原)

仏教壮年会

多摩組仏教連盟理事長 野田和義
のだからよし

東京教区仏教壮年会の活動

東京教区仏教壮年会連盟結成記念日研修会が、二月二十日（土）より二十一日（日）の一泊二日で開催されました。担当は都留組で、会場は山梨県石和温泉の「ホテル慶山」で開催されました。「後生の一大事」をテーマに、映画「送り人」を視聴し、作家の青木新門氏の講演をいただきました。参加者は合計二百七十名で、多摩組からは三十二名の参加を頂きました。東京教区仏教壮年会連盟の結成三十周年記念大会が、十月十七日（日）本願寺築地別院本堂を会場として開催されました。私も大会に参加させていただき、多くの先輩方がご苦労の中活動され、三十周年を迎えることに大変感慨深いものがありました。

多摩組仏教壮年会の活動

六月三日（水）、四日（木）、多摩組仏教壮年会連盟理事の一泊研修会が開催され、十三名が参加しました。

三日はあきる野本願寺に参拝し、会場をお借りしての研修会。理事の辻隆司氏（正善寺）が「お釈迦様の遺跡を訪ねて」と題して講演。同じく理事の武藤孝行氏（明西

寺）が「遺骨収集団に参加して」と題して講演しました。

四日は青梅市の浄弘寺さんに参拝し、内手弘充住職よりご法話をいただきました。また、来る十二月四日（土）午後二時から、仏教壮年会の研修会が圓福寺さんを会場として行われます。多くのご参加をお願いいたします。

今後は仏教壮年会の活動をより活性化し、「朋友の輪を拡げる」のテーマの通り、新たな仏教壮年会結成の一助になるよう活動して参りたいと思っております。平素の仏教壮年会にご理解ご協力いただき、深く感謝申し上げます。



多摩組仏教壮年会連盟理事一泊研修会（青梅市 浄弘寺にて）

総代世話人研修会について

多摩組総代世話人会 井上雅晴
いのうえまさはる

昨年度の総代世話人研修会は本年三月十三日圓福寺様にて開催、世田谷組組長白川淳敬師をお招きして、浄土真宗とそれ以外の宗派の差異など大変わかりやすいご法話を聴聞させていただきました。本年度の活動については、去る八月二十一日研修会実行委員会を安養寺様にて開催し、組内寺院を巡りその活動実態を拝見させて戴くことにはほぼ決めさせて戴きました。

各寺院はご住職を中心に日夜活動を続けておられ、また各総代世話人はご門徒との間に立って各種行事などを通じてご住職に協力し、寺院の円滑な運営に尽力されておられると思います。

しかしながら、平素各寺院間の交流は得難く、組内の寺院を訪問させて戴くことにより、そのお寺の様子や成り立ち特徴や貴重な経験などを披瀝していただき、良き点や未知の行事などは是非参考にさせて戴くことが、多摩組全体の寺院運営の向上に繋がります、延いては宗門の発展に少しでも役立てばこの上ない慶びと存じます。

本年の研修会日程が決まりましたら、あらためてご案内させていただきます。

仏教婦人会

東京教区仏教婦人会連盟多摩組代表

紋谷智子
もんや ともこ

東京教区仏教婦人会の活動

東京教区仏教婦人会連盟一泊研修会が、九月二日から三日の一泊二日で開催されました。会場は、横浜ブリーズベイホテルで、およそ百名ほどの参加者でした。ご講師は、奈良県の花岡静人師で、「浄土真宗の教章を聞く」のテーマに基づき、お話をいただきました。

多摩組仏教婦人会の活動

四月十九日に多摩組の仏教婦人会研修会が、布田の圓福寺で開催されました。組内各地から、およそ百名ほどの仏教婦人が集まりました。私たち、延立寺山ゆりの会のメンバー六名も、参加させて頂きました。

武蔵野大学OGの美しい仏教讃歌のコーラスを聞き、仏教讃歌の奥深さを知りました。

続いて、山崎龍明先生のご法話を聴聞しました。いつに変わらぬ優しい語りかけは、深く心にしみてきました。

お茶とお菓子をとおよばれし、実りの多い研修会を終え、有意義なこの日に感謝して

帰途につきました。

今後、いろいろな行事・研修会が催されます。是非お誘いあわせてご参加頂き、すてきな時間をお過ごしください。

門徒推進員協議会の活動

門徒推進員 麻木純三郎
あさぎ じゅんざぶろう

多摩組門徒推進員協議会は、発足後二年を経過し、現在十一名の門徒推進員で活動しています。当初二年間にわたって「歎異抄」をテキストにした自主的な学習会を開催しました。この学習会では、テキストをベースにして、仏教はもとより、宗教・倫理・哲学・法律・人生といった様々な項目について自由な話し合いを行い、参加したメンバーから「こういった話し合いを待っていた」と好評でした。

昨年度から「正信偈を読む」（靈山勝海師）の読書会を始めています。

また、昨年からは始まった「多摩組第八回連続研修会（連研）」の支援協力を行っており、今年十二月には多数の修了者を迎える予定です。

この中から、また新たな門徒推進員が誕生することを期待しています。

これからも、それぞれの寺院における活動はもとより、多摩組・東京教区の基幹運動を推進するために、ご住職や仏壯・仏婦の各団体やご門徒と協力し、門徒推進員として自覚を持って行動していく所存です。



（多摩組連続研修会にて 昨年十二月 於正善寺）

豆知識

築地本願寺本堂改修工事にあたって、蓮華殿の仮本堂に使用している宮殿・須弥壇・台座・輪燈は、京都本願寺の「御影堂平成大修復」において仮御影堂に使用されていたものです。また、ご本尊の阿弥陀如来像は、人口減少によって閉鎖された函館別院の出張所のご本尊です。

中ブロック門徒子弟研修会 サマーキャンプ in 三浦



「三浦ふれあいの村」海岸に全員集合

昨年に引き続き、海での開催となったサマーキャンプ。今年も、八月三日から四日の一泊二日。神奈川県立「三浦ふれあいの村」で開催された。およそ東京ドーム3個分の広さのあるところ。中には山あり海ありと、いろいろ楽しめる場所です。今年も調布の圓福寺さんの本堂をお借りし、新門さまにご臨席いただいて開会式を行いました。

開会式には新門様からお言葉をいただく

て、参加者一同気持ちを引き締め、記念写真後バスに乗車。子ども二十九名大人三十一名の総勢六十名、一路「三浦ふれあいの村」へ出発。

到着は海の見える「三浦ふれあいの村」正面のゲートです。ゲートから宿舎まで、みんな揃って徒歩で移動。これがまた距離があり、なだらかな林の中を登ること、十数分。子どもたちは、ワイワイ言いながら楽しそうに、林の中を登っていききました。しかし、スタッフはここでの一番大変ことは、海岸への移動であることを、体力的に覚悟した瞬間でした。

宿舎へついたら、まずは腹ごしらえの昼食です。昼食後、「早く海へ行こう」という子どもたちを制し、ふれあいの村の皆さんへのご挨拶。

その後水着に着替えて、準備運動がいないかと思えるような広い敷地内を歩いて、海岸に到着。ちゃんと入水前の準備体操をして、海水浴の開始です。

当日は非常に良い天気で、子どもたちには絶好の海水浴日和でした。リーダーやサブリーダーを相手に、大はしゃぎ。休憩時間がかかるたびに大ブーイング。

喉がかわいた頃に、今年もとても大きなスイカで、スイカ割り大会です。タオルで目隠しをして、まっすぐ歩いて棒を振り下ろす。しかし、これが不思議となかなか当たらないのです。割れないのです。時代が変わっても誰がやっても、そのところは変わらないようです。

夕食は、バーベキュー。お肉・イカ・野菜・焼きそばなど、食べきれないほどの食

材が用意してあり、子どもたちはとても美味しかったようです。

夕食後は夜の集いで、多目的ホールを借りてゲームを楽しみました。キッズサンガのスタッフが、頭と体の両方を使うようなゲームをたくさん考えてきてくれました。張り切り過ぎて転んだ子供もいましたが、元氣いっぱい楽しんでいました。

二日目の始まりは、「おあさじ（朝の勤行）」からです。おつとめの後、延立寺住職松本智量先生のお話を聞きました。目の錯覚のパネルを用意してください、私たちの思い込みが自分のこのころの目を閉じさせていることがある。当たり前のことのように感じていることが、当たり前でなく実はとても尊いことであり、日頃お世話してくださるみんなに『ありがとう』といましよう。」先生のお話に大きくうなずいたあと、美味しい朝食をいただき、お昼まで海で遊びました。

昼食にはカレーライスをいただき、「三浦ふれあいの村」をあとにし、圓福寺さんに向かい、いよいよ閉会式です。

閉会式は、本堂でおつとめの後、子どもたちに修了証と記念品がわたされ解散となりました。解散後には、友だち同士が来年の再会を約束している姿が印象的でした。

今年も事故なく、猛暑のおかげで天候の心配もいらず、海が思い切り楽しめたサマーキャンプになりました。これひとえにお忙しい中ご参加ご協力をいただきました皆さまのおかげと、感謝いたしております。ありがとうございました。（内手）

住職に聞きました

お寺を訪ねて

應善寺(国立市東)

今回お訪ねした應善寺は、文教地区に指定された学園都市として、文化の香りが漂う中央線国立駅南口から徒歩八分の場所にあります。境内の入り口には應善寺と書かれた立て札があり、本堂屋上に三重塔が聳え、境内隣接地には保育園が併設され百名の園児でにぎわっています。



伊藤純子前坊守 伊藤了信住職 美法坊守

また門徒会館が併設されてあります。国立は、旧箱根土地株式会社によって谷保村北部の約百万坪といわれる雑木林を、学園都市構想に基づいて東京商科大学(現一橋大学)を誘致し、地区開発・分譲された街で、地名・駅名は国分寺と立川の中間に位置するところから、その一字ずつをとった合成地名に由来します。

聖衆山應善寺は、開祖郭念法師により、江戸時代初期、当時本願寺の別院のあった、日本橋横山町に創建されました。その後明應三年(一六五七)江戸の振袖火事により消失し、築地本願寺の地中寺院として再建されました。大正十二年の関東大震災により灰燼に帰し、門徒総代上野風月堂の大住喜右衛門・省三郎両氏のご芳志により、国立の現土地の寄進を得て、堂宇の建立・墓地の造成を行ない、昭和五年に落成、移転し現在に至っております。

應善寺は、昭和二十六年、先師の時代、町の浄化運動から発生した文教地区指定運動の第一回目の会合が本堂において開催され、寺が一つの中心として市民運動を支え、同二十七年国立市が文教地区に指定されました。昭和二十九年には境内隣接地に社会福祉法人の保育園を設立。同五十四年本堂屋上に建立された鐘楼からは、お念仏の響きはもろんのこと、毎年終戦の日には、市内に平和の響きを伝えていきます。

現住職(第十六世・伊藤了信師)は、龍谷大学ご卒業後まもなく、平成五年に住職に就任されました。多摩組会計係としてご活動のほか、月二回の住職ご自身による定

例法話会や文書伝道に力を入れられ、春秋の彼岸会・降誕会・盂蘭盆会・報恩講・永代経法要等の法要を通して、ご門徒の方々の交流を深めているとのことでした。

ご門徒さんは築地の時代の方々のほか、近隣のご門徒さんも増えてきているとのことでした。

本堂裏手には一般墓地の他に、有縁の門信徒の方の合葬のお墓「聖衆(しようじゆ)」が二つあります。

『聖衆とは、お浄土に生まれたすべての仏様のことで、私達も命終わればお浄土に往生し、仏様となります。お浄土はすべての人が帰してゆく尊い世界で、どこの家の先祖とか人間的なつながりを超えた平等の世界です。(お寺のパンフレットより)』
また特筆すべき事柄として、毎年八月十五日には鐘を撞き、「平和を念じる会」をご門徒が中心となって企画運営にあたり、昨年の座談会では、「戦争体験を通して非戦・平和を考える」をテーマとしての多くの方の発言が寺報「御門徒」に掲載されておりました。

應善寺のこれらの活動は、「ご門徒を中心とした行事の比重を高めていきたい」とのご住職のお考えが浸透し、ご門徒の皆様方のお寺への積極的な関わり、また、平和の鐘が響きわたる地域との関わりを通して、地元の情報信頼が根付いている様子が伺えました。

これからもご住職のますますのご活躍とお寺の発展を念じながら、應善寺をあとにしました。

(麻木・佐藤・辻)

西本願寺（京都・本山）

〒600-8501 京都市下京区堀川通花屋町下ル本願寺門前町

電話 075(371)5181

FAX 075(351)1211

本願寺築地別院（築地本願寺）・東京教区教務所

〒104-8435 東京都中央区築地3丁目1番1号

築地別院電話 03(3541)1131

教務所電話 03(3541)1666

東京教区多摩組寺院所在地

調布市

光徳寺（こうとくじ）〒182-0003
調布市若葉町1-38-27
TEL03(3300)6431 FAX03(5384)3344
(法座：不定期 お問い合わせ下さい)

明西寺（みょうさいじ）〒182-0003
調布市若葉町1-43-5
TEL03(3300)1901 FAX03(3300)2681
(法座：10日前後婦人会 1.4.8月壮年会)

延浄寺（えんじょうじ）〒182-0006
調布市つつじが丘2-30-1
TEL03(3326)7337 FAX03(3326)5037
(法座：不定期 相談日第1日曜日午後予約)

長専寺（ちょうせんじ）〒182-0033
調布市富士見町1-35-4
TEL042(482)3411 FAX042(498)1105
(法座：不定期)

西照寺（さいしょうじ）〒182-0003
調布市若葉町1-39
TEL03(3300)7734 FAX03(3300)7794
(法座：毎月8日・第4土曜 親鸞会)

光西寺（こうさいじ）〒182-0003
調布市若葉町1-44-2
TEL03(3300)5054 FAX 同左
(法座：不定期)

光源寺（こうげんじ）〒182-0006
調布市西つつじが丘2-30-11
TEL03(3300)0881 FAX03(3308)6289
(法座：隔月奇数月 お問い合わせ下さい)

覺證寺（かくしょうじ）〒182-0033
調布市富士見町1-35-5
TEL042(482)5556 FAX042(480)0166
(法座：第1土曜日・学習会 第2火・水頃)

正善寺（しょうぜんじ）〒182-0003
調布市若葉町1-42-5
TEL03(3300)6064 FAX03(3300)6687
(法座：第1日曜日(1日なら8日))

安養寺（あんようじ）〒182-0003
調布市若葉町1-44-5
TEL03(3307)5605 FAX03(3307)5496
(法座：第1日曜日)

圓福寺（えんぶくじ）〒182-0022
調布市国領町1-10-11
TEL042(482)7955 FAX042(481)4734
(法座：不定期)

国立市

應善寺（おうぜんじ）〒186-0002
国立市東2-2-1
TEL042(572)0043 FAX042(572)0148
(法座：毎月1日・16日)

立川市

光西寺（こうさいじ）〒190-0021
立川市羽衣町3-20-16
TEL042(522)3413 <http://www.kousaiji.com/>
(法座：毎週金曜晚又は土曜昼 各種仏教講座)

小平市

照恩寺（しょうおんじ）〒187-0041
小平市美園町3-23-20
TEL042(341)2935 FAX042(347)4122
(法座：毎月13日・第1土曜・第4土曜)

青梅市

浄弘寺（じょうこうじ）〒198-0036
青梅市河辺町8-19-8
TEL0428(32)1769 FAX0428(32)2010
(法座：第3土曜日)

八王子市

専念寺（せんねんじ）〒192-0063
八王子市元横山町2-14-24
TEL042(644)3491 FAX042(648)6087
(法座：隔月1回 お問い合わせ下さい)

誓願寺（せいがんじ）〒193-0816
八王子市大楽寺町209-5
TEL042(651)0073 FAX042(651)6183
(法座：第3木曜日・毎月10日大楽会)

光照寺（こうしょうじ）〒192-0912
八王子市絹ヶ丘3-8-1
TEL042(635)3754 FAX 同左
(法座：不定期)

本光寺（ほんこうじ）〒1923-0832
八王子市散田町4-40-10
TEL042(664)2196 FAX042(663)2501
(法座：仏教講座 第3金曜日)

延立寺（えんりゅうじ）〒193-0802
八王子市犬目町681
TEL042(654)2429 FAX042(654)6930
(法座：第4月曜日)

大恩寺（だいおんじ）〒193-0943
八王子市寺田町1085
TEL042(668)0889 FAX042(668)1825
(法座：第2土曜・第4日曜・第1土曜(婦人会))

町田市

圓成寺（えんじょうじ）〒194-0004
町田市鶴間1210
TEL042(795)0181 FAX042(795)0444
(法座：毎月28日)

圓成寺出張所（えんじょうじ）〒194-0035
町田市忠生3-24-13
TEL042(792)3007 FAX042(792)3006
(法座：毎月10日 休日なら翌日)

町田布教所（まちだふきょうじょ）〒195-0063
町田市野津田町2534-20
TEL042(737)3236 FAX 同左
(法座：第2土曜・23日前後の平日)

多摩市

阿弥陀寺（あみだじ）〒206-0013
多摩市桜ヶ丘1-24-2
TEL042(375)8055 FAX042(337)4889
(法座：年3回・毎月28日 明宝会・毎月15日前後
極楽トンボ会)

稲城市

玄忠寺（げんちゅうじ）〒206-0822
稲城市坂浜878-6
TEL042(331)3655 FAX042(331)3511
(法座：第3日曜日)

(法座へお出かけの折には、必ず電話にて日時をご確認の上、お出かけ下さい。)